

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 1 部門第 2 区分
【発行日】令和 6 年 9 月 26 日(2024.9.26)

【公開番号】特開 2023-96863(P2023-96863A)
【公開日】令和 5 年 7 月 7 日(2023.7.7)
【年通号数】公開公報(特許)2023-127
【出願番号】特願 2021-212887(P2021-212887)
【国際特許分類】
A 63 F 7/02(2006.01)
【F I】
A 63 F 7/02 3 2 6 Z

10

【手続補正書】
【提出日】令和 6 年 9 月 17 日(2024.9.17)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項 1】

20

遊技領域へと発射される又は遊技領域から遊技領域外へと排出される遊技球を検出するアウト検出手段と、
入賞口を通過した遊技球を検出する入賞検出手段と、
前記アウト検出手段の検出結果に基づいたアウト数と、前記入賞検出手段の検出結果に基づいた遊技価値数とに応じてカウントする計数カウンタと、
前記計数カウンタが所定の値を超えた場合に特定コマンドを送信するコマンド送信手段と、
前記コマンド送信手段にて送信した前記特定コマンドを受信するサブ制御手段と、
前記計数カウンタが前記所定の値を超えた場合に、遊技停止状態とする遊技停止手段と、
を有し、
前記サブ制御手段は、エラー報知を行うエラー報知手段を有し、さらに、
前記サブ制御手段は、前記特定コマンドを受信した場合に、所定の予告演出の抽選、又は、実行を制限してなり、
前記エラー報知手段によって、前記特定コマンドを受信する前にエラーが発生したことに
応じたエラー報知が行われた場合、
前記エラーのうち、前記特定コマンドを受信する前に、第 1 のエラーが発生し、第 1 エラ
ー報知が行われていた場合に、前記遊技停止状態に移行することで、該第 1 エラー報知を
中止する一方、
前記エラーのうち、前記特定コマンドを受信する前に、第 2 のエラーが発生し、第 2 エラ
ー報知が行われていた場合に、前記遊技停止状態に移行しても、該第 2 エラー報知を継続
し、
前記遊技停止状態前に、前記第 2 のエラーが発生しておらず、前記遊技停止状態後に、新
たに該第 2 のエラーが発生した場合にも、前記第 2 エラー報知を行ってなる遊技機。

30

40

【手続補正 2】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0007
【補正方法】変更
【補正の内容】

50

【 0 0 0 7 】

請求項 1 の発明に係る遊技機によれば、遊技領域（例えば、図 2 に示す遊技領域 4 0 ）へと発射される又は遊技領域から遊技領域外へと排出される遊技球を検出するアウト検出手段（例えば、図 4 に示すアウト口スイッチ 5 0 a ）と、

入賞口（例えば、図 2 に示す特別図柄 1 始動口 4 4、特別図柄 2 始動口 4 5 a、右上一般入賞口 4 9 a、左上一般入賞口 4 9 b、左中一般入賞口 4 9 c、左下一般入賞口 4 9 d、図示しない大入賞口）を通過した遊技球を検出する入賞検出手段（例えば、図 4 に示す特別図柄 1 始動口スイッチ 4 4 a、特別図柄 2 始動口スイッチ 4 5 a 1、右上一般入賞口スイッチ 4 9 a 1、左上一般入賞口スイッチ 4 9 b 1、左中一般入賞口スイッチ 4 9 c 1、左下一般入賞口スイッチ 4 9 d 1、大入賞口スイッチ 4 6 c ）と、

10

前記アウト検出手段の検出結果に基づいたアウト数と、前記入賞検出手段の検出結果に基づいた遊技価値数とに応じてカウントする計数カウンタ（例えば、差球カウンタ）と、

前記計数カウンタが所定の値を超えた場合に特定コマンド（例えば、遊技停止コマンド）を送信するコマンド送信手段（例えば、図 4 に示す主制御 C P U 6 0 0 a ）と、

前記コマンド送信手段にて送信した前記特定コマンドを受信するサブ制御手段（例えば、図 4 に示すサブ制御 C P U 8 0 0 a ）と、

前記計数カウンタが前記所定の値を超えた場合に、遊技停止状態とする遊技停止手段（例えば、図 4 に示す主制御 C P U 6 0 0 a ）と、を有し、

前記サブ制御手段（例えば、図 4 に示すサブ制御 C P U 8 0 0 a ）は、エラー報知を行うエラー報知手段を有し、さらに、

20

前記サブ制御手段は、前記特定コマンドを受信した場合に、所定の予告演出の抽選、又は、実行を制限してなり（例えば、図 9 参照）、

前記エラー報知手段によって、前記特定コマンドを受信する前にエラーが発生したことに応じたエラー報知が行われた場合、

前記エラーのうち、前記特定コマンドを受信する前に、第 1 のエラー（例えば、緊急度が低いエラー）が発生し、第 1 エラー報知が行われていた場合に、前記遊技停止状態に移行することで、該第 1 エラー報知を中止する一方、

前記エラーのうち、前記特定コマンドを受信する前に、第 2 のエラー（例えば、図 4 に示す不正検出基板 5 5 にて遊技者の不正行為を検出した不正エラー）が発生し、第 2 エラー報知が行われていた場合に、前記遊技停止状態に移行しても、該第 2 エラー報知を継続し

30

、前記遊技停止状態前に、前記第 2 のエラーが発生しておらず、前記遊技停止状態後に、新たに該第 2 のエラーが発生した場合にも、前記第 2 エラー報知を行ってなる（明細書段落 [0 2 7 8] ~ [0 2 8 0] 参照）ことを特徴としている。

40

50